

新年メッセージ（1月6日校長講話）

皆さん、新年、明けましておめでとうございます。いよいよ2011年が始まりました。新しい年を迎えて、「目標主義」で成果を出しましょう、という話をします。

新年になり、心を新たに頑張りたいと思い、新たな目標として「できるだけ本を読みます」とか「できるだけ勉強します」あるいは「できるだけ成績をあげるようにがんばってみます」など、このように自分の決意を表示して、がんばろうとする人はたくさんいます。

確かに、がんばろうとしていることはわかります。しかし、この姿勢は「できるだけ主義」といって、現実には、本人が思っているほど成果は上がっていません。「今度こそ！」「明日こそ！」「来月こそ！」と言ってがんばろうとするけれども、いつも結果が伴わないという人に多いパターンです。

実際、成果を上げている人やしっかりと結果を残している人は、「週に2冊は必ず本を読みます」「毎日4時間は絶対に勉強します」など、「このところは必ずこういう手を打ちます」という明確で具体的な表現をします。これを「目標主義」といいます。

「できるだけ主義」と「目標主義」のどちらも、がんばる姿勢があることは確かなのですが、その「行動力・実行力」には、結果として大きな差が出ます。

実は、「できるだけ主義」の人は、「がんばります！」という自分の気持ちしか言っていないのです。そのときは、かなりのことができそうに自分では思っているのですが、結果は、「やる気はあったんだけど、何も行動しなかった、実行できなかった」ということが多いのです。気持ちだけでは、「必死になれない」「本気になれない」のが現実です。

それに比べて、「目標主義」の人は、「何をどのようにがんばるのか」を明確にしています。これが「行動力・実行力」につながるのです。そして「どれだけががんばるのか」「どこまでがんばるのか」を具体的に自分に言い聞かせることで、達成までの「本気度」と「粘り強さ」を生んでいるのです。

「がんばる」という言葉は、本来、やるべきことが決まってから使う言葉です。がんばる方向も、がんばる内容も、がんばるその量もわからないのに、「とにかくがんばろう！」だけでは、自分に変化は起こせません。

皆さん、「できるだけ自分の学力を高めたい」というだけでは、必死にがんばることはできません。もう一步踏み込んで、「具体的に何をしてどう自分の学力を高めるのか」とか、「具体的に何をどのようにして自分の目標を達成するのか」を、是非明確にしてみてください。

新しい年を迎えるには、新しい心構えが必要です。決してただ漫然と迎えるのではなく、日々新年（毎日が新しい年を迎えるごとく）、日々新生（毎日が新しく生まれ変わるとく）の思いを新たに、悔いのない充実したこの一年にして頂きたいと、強く願っています。